

# 安七五期

葉書との同級会

海外初の香港・華南桑野会を訪問。佐久間崇之の6期桑野会長、関博之安積高校校長、松尾昌一の9期桑野会幹事長に同行した。夜遅く香港国際機場着。ホスト役渡邊剛司104期が迎えに出た。香港と中国のダブルナンバープレートタクシーで国境越え。(何故か香港と中国には国境が存在する)深夜に深セン市羅湖区の蘆山飯店にチェックインした。翌日早起きのジサマ四人は待ちきれず、蘆山飯店の上にある渡邊剛司のオフィスを訪問。美人小姐

に朝茶を出して頂いた。その日は剛司の弟知昭108期の案内で「世界の窓」観光。夜は渡邊兄弟の案内、六人で潮州料理を囲んだ。翌朝、蛇口、香港九龍をフェリーで移動。宿泊先尖沙咀の朗延酒店に早々チェックイン後観光へ。星輪渡(スターフェリー)で香港島中環へ渡り「慕情」の舞台になった。浅水灣経由で赤柱へ。西欧風廓囲気の中オープンカフェで昼飯。一階建て電車と、ケーブルカー。最後「ゴージャスな半島酒店のハイティ」と私の定宿の重慶大廈との落差を味わって不肖私もみじ旅行社」の独断偏見「ジ」中のわがままガイドを終えた。その夜、背広にネ

クタイで香港・華南桑野会の面々と会食。熊坂雅彦84期藤倉浩一87期溝井正幸87期庄司忠司96期と前記渡邊兄弟の都合六名が出席。佐久間会長から香港・華南桑野会会旗の贈呈、旗をバックに全員で写真撮影。全員が高校時代の思い出を語った。共通して「高校時代は落ちこぼれた」と言つが教師生活が長い関は「凄い、みんな見知らぬ土地で遅い」と眩しげに皆を見ていた。安藤博の保存に香港桑野会諸氏から大金を預かった。私は友人の娘の結婚式に出席した。主賓は齋藤勲。あさかの学園大学で、新婦の郡山市立第二中学校時代の恩師として挨拶をした。さす

が先生は挨拶が上手。以下良き夫婦に贈るあいさとお。ありがとうを忘れない。いいこの場としての家庭を築く。ういっしい、新婚当時の新鮮な気持ちを忘れぬ様えがおを常に絶やさない。おもいやる気持ちをいつも継続。手紙によるスイスカラの友人スピーチが朗読された。こちらは平田英寿の娘祥だった。「日本語忘れたのかしら少し手直したの」と母博子披露宴終了後あさかの学園で講師も努める、タウン誌の編集長伊藤文史。「おお村田君と同年、ならば俺と同級生という訳だ、一緒に飲みさ行くべ」と意気投合。齋藤は伊藤和とその子分に囲まれ夜の町に消えた。